

まっとうに生きようとする知恵が集まれば 少しずつ社会を変えることができる

カンサンジュン

姜尚中さんが講演



姜尚中さんの講演に拍手を送る会場いっぱいの参加者

市内外から約900人参加

8月21日、エコルマホールで「こまえ平和フェスタ2011」が開催され、出演者も含め市の内外から約900名が参加しました。平和フェスタは市と市民の協働で毎年開催され、今年で7回目となります。

和泉児童館の子どもたちで構成されるpopkids、Team☆Dによるダンスで始まったフェスタでは、実行委員長の西尾真人さんが「会場いっぱいの参加者で感激しています。今年は震災と原発の事故で沢山の人が犠牲となり、住んでいた土地と生活を奪われています。平和は災害や貧困のない社会をつくることです」とあいさつしました。



和泉児童館のpopkids、Team☆Dによるオープニングダンス

こまえ平和フェスタ



ミュージカルC o C oによるミュージカル

また矢野ゆたか市長は「今年のテーマは『向き合おう生命（いのち）、つなげよう世界』です。過去の悲惨な戦争を直視し、将来にわたってくりかえさせない決意を込めて、粕江市民の平和の声を世界へ発信していきましょう」とあいさつしました。栗山欽行議長からは「戦争を知らない世代が多くなった今、戦争の悲惨さや平和の尊さを語り継いでいくことが大切」とのメッセージが寄せられました。

その後、粕江高校演劇部による粕江市平和都市宣言の朗読が行われ、同校弦楽合奏部による演奏、ミュージカルC o C oによるミュージカル「明日に向かって」が披露されました。そして市内在住の音楽家である、堀江悟さん（バイオリン）、堀江伶子さん（フルート）、日裏晶子さん（ピアノ伴奏）が「スラブ舞曲 No.2」「アヴェ マリア」などの演奏を行い、参加者から大きな拍手が送られました。

第2部では東京大学大学院教授の姜尚中（カンサンジュン）さんが講演しました。姜さんは、憲法改定の動きや大震災と原発事故について語り、「政治がわれわれの日常生活から遠く離れていく」「国が人々の命や平和、安全を守ってくれるのか、非常に大きな疑問が出ている」（2面につづく）

戦争を忘れないで語りつごう

～向き合おう ^{いのち} 生命 つなげよう 世界～



(左から) 堀江伶子さん、日裏晶子さん、堀江悟さんの演奏



西尾真人実行委員
長があいさつ



矢野ゆたか市長が
あいさつ

(1面からの続き) 「韓国の元大統領の金大中さんは私に『我々は民主主義のために様々な犠牲を払った』と言った」

「我々は知恵を出さなければならない。自分たちが動くことを通じて人々の輪が広がる」「まっとうに生きようとする人々の知恵があり、必ずや社会を変えていくことができる」「一人一人は弱いもの。しかし弱い存在が横で結び付けば、(お任せ民主主義でなく) 民主主義をわがものにすることができる」と訴えました。

ホワイエでは朝鮮・韓国と泊江の交流や歴史、大震災と原発事故、沖縄の基地、俳句・川柳や絵手紙などの展示が行われ、多くの参加者が熱心に見て回りました。

ホワイエで展示を見ていた中和泉に住んでいるという女性は「私、姜さんが好きなの。あの人の本いろいろ読んだわ。玉翠園のことは知らなかったわねえ」と話しました。また別の女性は「小学校6年生の時終戦で、中学に入って新しい憲法の勉強をして、私は、変わることができたの。でも母は、戦後もずっと朝鮮人を蔑視していて変わることがなかったわ。教育って大事ね」と話してくれました。



料亭だった泊江玉翠園が戦争中は、強制連行した朝鮮人を徴兵する施設になっていた事実を示すパネルに注目が集まった



平和フェスタ合唱団によるコーラス



泊江高校弦楽合奏部による合奏



泊江市平和都市宣言の朗読



ホワイエの展示を見る参加者



講演後、展示を見る姜尚中さん



著書にサインする姜尚中さん